

(一般質問)

質問日	令和6年12月11日(水)			質問方式	分割方式		
質問順位	10	会派名	自由民主党浜松	議席番号	17	氏名	露木 里江子
表題	質問内容						答弁者の職名
1 創造都市・浜松の取組について	<p>中野市長は就任以来、「まち・ひと・しごと」の創生を一体的・総合的に進めることにより、浜松を元気にする取組を進めるとしてきた。「まち」の創生として、文化面では、浜松国際ピアノコンクールをはじめとした音楽の資源を最大限に活かして、都市の魅力を高めてきた。文化芸術と産業経済の創造性に富んだ姿が創造都市であり、本市は、ユネスコの創造都市ネットワークの音楽分野での加盟が認定されて10年となる。</p> <p>音楽以外の表現活動も活発に行われており、その活動は本市のさらなる魅力につながるものであり、生かしていくべきと考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 多様な文化を生かした創造都市・浜松の実現に向けての市長の考え方を伺う。 (2) 浜松版アーツカウンシルの現状と課題、今後の展開について (3) 鴨江アートセンター、木下恵介記念館の現状と課題、今後の展開について (4) アートと地元産業の連携について 						
2 河川愛護支援事業について	<p>河川愛護活動の担い手である地域の自治会から、草刈りの負担が大きいことについての相談が増えている。また、河川美化報奨金は、2007年度以降据え置かれており、自治会等から増額を希望する声も多い。</p> <p>人口減少や地域の高齢化、気候変動に伴う活動環境の変化等により、活動の存続が危ぶまれる状況になっているが、地域による河川愛護活動は環境美化の観点から市にとって重要である。一方河川愛護活動を行う市民の安全確保や活動を継続するための財政的な支援も重要であるため、市として、的確な支援を行うべきだと考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 本市の河川愛護活動の課題について (2) 地域負担の軽減に向けた取組について 						
3 子どもの多様な居場所とふれあい交流センターの活用について	<p>子どもが、家庭や学校以外で安全に過ごせる環境が限られている現状において、子どもの安全・安心な居場所の確保は喫緊の課題である。こうした居場所は、子どもの健全な成長を支えるだけでなく、放課後の安全にもつながるため、多様な居場所づくりが必要不可欠である。これらの居場所では、子どもが様々な経験や学びを得ら</p>						

*二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表題	質問内容	答弁者の職名
	<p>れるよう、遊び、学習支援、相談支援などの多様な機能を備えることが求められている。特に、核家族化が進む現代社会では、多世代交流の機会を提供する居場所が重要な役割を果たす。</p> <p>しかし、こどもを取り巻く課題は複雑化し、価値観も多様化しているため、行政、学校、地域住民、民間代替など様々な主体による連携や協働が不可欠であり、地域の実情に応じた柔軟な居場所づくりを進めていくことが重要である。</p> <p>このような取組を通じて、すべてのこどもが安心して過ごせる環境を整備し、こどもの健やかな成長と幸せな社会の実現を目指す必要があると考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 放課後児童会の待機児童解消について</p> <p>(2) こどもの居場所の現状と今後の取組について</p> <p>(3) 多世代交流の場としての「ふれあい交流センター」の今後の考え方について</p>	
4 老衰以外の死亡原因の第2位である心疾患対策について	<p>心疾患は健康寿命を縮める大きな要因の一つであるとともに、心不全の地域連携が万全ではなく、二次救急を担う市の急性期病院への初発の超高齢心不全患者が搬送されるケースの増加により、本来の急性期対応に影響を及ぼしており、心不全に関する地域連携等の新たな取組が期待されている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 令和3年の浜松ウエルネス・ラボ、PFS実証実験「浜松市国民健康保険加入者を対象とした生活習慣病重症化予防事業の官民連携社会実証」にて、循環器疾患対策としてレセプト情報からAIで抽出した重症化リスクの高い方へのICTによる保健指導を試験的に実施しているが、実証報告によるとプログラム参加者の生活習慣や疾病状況に改善が見られている。地域医療全体の対策を講じるため、国保以外のけんぽ組合とも連携し事業に取り組むことにより健康寿命延伸に向けた全市的な推進が図られると考えるが、本市における国保以外のけんぽ組合との連携に関する現状と課題について伺う。</p> <p>(2) 浜松医科大学から、心不全地域連携の課題解決に向けて、循環器病に関する啓発や人材育成、AI活用等の研究に資する寄附講座開設に関する要望書が提出された。心不全に対する本市での医療レベルの向上による健康寿命の延伸に向け、有効性の高い取組であると考えるが、本市の考えを伺う。</p>	

表題	質問内容	答弁者の職名
5 特定外来生物 「クリハラリス」と 「ヌートリア」対策 について	<p>特定外来生物クリハラリス対策について、本市は、2019年度に「浜松市クリハラリス捕獲プラン」を策定し、翌年度から計画的に防除を進めてきた。1970年頃、浜松城公園付近から増え出したクリハラリスは、高い繁殖力で市内に広く拡散した。これ以上の生息域の拡大は農林水産業への被害、在来種への影響が懸念されることから、防除の手を緩めてはならないと考える。</p> <p>また、同じく特定外来生物であるヌートリアの生息域は、西日本から拡大してきたものであるが、本市でもこの数年で川沿いに生息が広がりを見せており、稲やレンコン等の食害も確認されている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) クリハラリスについて、捕獲プランの進捗状況、生息数等現状と課題について</p> <p>(2) ヌートリア対策の現状と課題、今後の対策について</p>	山田環境部長